



HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE

Race	SUPER GT Rd.4
	FUJI GT 300km RACE
Date	2015.08.08-09
Race Track	FUJI SPEEDWAY
Team	RUNUP Group & DOES GT-R



好タイムをマークするも Q2 進出ならず。

第4戦の舞台は、今シーズン2レース目となる静岡県富士スピードウェイになります。第3戦のタイヤラウンドをスキップしたため、チームとしてはGW以来、約3か月ぶりのレースとなります。久々のGTレースとなりますが、GT-Rとこのサーキットの相性も良いため、今季のベストリザルトを残すべく今回のレースに挑みました。

2015.08.08 FREE PRACTICE (フリー走行 10位 / 29台中) WEATHER : DRY

先ずは約1時間半のフリー走行がスタートしました。セッション開始と同時にコースインし、持ち込みセットの確認を行います。持ち込んだ状態から悪くなかったため、すぐに田中選手に交代し周回を重ねてもらいました。その後は路面のコンディションが徐々に整ってきたので、予選に向けての最終調整に入ります。今回は2種類のタイヤを用意してもらったのですが、このレース前に行われた鈴鹿テストの結果から、チームとしては柔らかいほうのタイヤで予選・決勝全てを走り切るつもりでセッティングなどを進めていきました。そしてセッション終盤に入り、予選シミュレーションを行った結果、1'39.587という10番手タイムを記録しフリー走行が終了となります。決して満足できるタイムではありませんでしたが、トップから約0.6秒差だったので、この差を埋めるべくチームと話し合い予選に備えました。



2015.08.08 QUALIFYING (公式予選 14位 / 29台中) WEATHER : DRY

午後に入り、公式予選の時間を迎えます。今回は300クラスのエントリーが29台と、今季最大のエントリー台数となったため、予選でQ2へ進出するには、かなりの激戦が予想されます。テストからQ1突破の手応えはあったのと、タイム差も僅差になることが予想されたので、少しでも良いコンディションでアタックできるように予選開始から3分ほどウェイティングしてコースインしました。しかしコースイン後、タイヤを温めているところで赤旗となり、セッションが中断となります。



その後、残り11分ほどで公式予選が再開となったため、今度はセッション開始とともにコースインアタックを開始しました。計測1周目から午前からのベストタイムを更新し、2周目には1'38.456というタイムで暫定トップに躍り出ます。その後、ポジションは5番手まで落ちてきてしまいましたが、私はタイムを更新することは出来ず、最終的に5番手でQ1予選は終了となりました。しかし予選終了後、私がアタックしたベストラップの周が走路外走行の対象となりこのラップが抹消され、セカンドベストのタイムから14番グリッドとなってしまいます。そのためQ2への進出はならず、レースは14番グリッドからのスタートとなってしまいました。



自分のミスから、Q2でアタックしてもらおう予定だった田中選手やチーム、ヨコハマタイヤ様に迷惑をかけてしまい、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。予選直後は自分のミスに落ち込んでいましたが、メカニックさんが夜遅くまで決勝に向けタイヤ交換の練習などを行っている様子を見て、今自分がやるべきことは何かと考え、気持ちを切り替えることが出来ました。

SPONSOR





HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE



ブレーキトラブル発生も、21位完走を果たす。

2015.08.09 RACE (決勝 21位 / 29台中)

WEATHER : DRY

決勝日は晴天となり前日より暑く、過酷なレースが予想される中、スタート進行が行われます。スターティンググリッドは14位とあまりよくありませんが、フリー走行や予選から、良いペースで走れることは予想できたので、どれだけ追い上げられるかがポイントになってきます。



気温や路面温度が少し下がってきた午後3時、グリーンシグナル点灯にあわせて、決勝レースの火蓋が切られて落とされました。スタートから前だけに集中し、まずは1コーナーで1台をパスします。混戦の中、最終コーナーの立ち上がりで合わせて1台、そして2周目のヘアピンでさらに1台と、徐々にポジションを上げることに成功します。

10周目にはGT-R 15年モデルの特徴でもあるストレートの速さとブレーキングの良さを活かし、8番手までポジションを上げることが出来ました。その後1台にはパスされたものの、引き続き前を走る車に仕掛けていた16周目、ブレーキトラブルが発生し、1コーナーでオーバーランしてしまいます。

どうにかピットに戻り、ブレーキの修復作業の後コースに復帰しましたが、すでに7周ほど周回遅れとなっており、実質の勝負権はなくなってしまいました。しかし、諦めきれない気持ちや今後のデータを取るためにも周回を重ね、田中選手にドライバー交代し、21位でチェッカーを受けることとなりました。

今回はペースが良かったので悔しさも大きいですが、自分の予選のミスから流れが変わってしまったような気がします。スポンサー様や応援していただいたファンの方々には申し訳ない気持ちでいっぱいです。

しかし、シリーズ最長で最も過酷な鈴鹿1,000kmレースも月末に控えているので、落ち込んでいる時間はありません。今回のミスやトラブルの原因をしっかり追究し、鈴鹿のレースでリベンジしたいと思います。それでは引き続き、ご指導、ご支援よろしくお願致します。

 吉田 広樹



SPONSOR

